

低下に転じた米失業率

ポイント① 予想外の失業率低下、雇用増

6月5日発表の5月の米国雇用統計によれば、失業率は13.3%と4月の14.7%から低下しました。また、非農業部門の就業者数は前月比250.9万人増加しました。市場では失業率が上昇し、就業者は減少するとの見通しが大半でしたので、予想外に強かったと言うことができ、5日には米国で株価が大きく上昇しました。レイオフ（一時帰休、米国の雇用統計では失業者に算入）から職場に復帰した人が増大したことが、雇用の回復をもたらしました。

ポイント② 企業景況感も回復

新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するために取られていた人々の行動を制限する措置が緩和され、経済活動が再開され始めています。それによって、企業の景況感も改善に向かい始めたようです。米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、5月には製造業、非製造業とも上昇に転じました。米国の景気は、最悪期を脱したと見られます。

ポイント③ 消費、雇用の回復は遅れる見込み

ただ、米国では毎日2万人程度の新規感染者の確認が続いており、感染拡大の懸念は残っています。このため、経済活動が再開されても、人々が外出を控え、密集を避ける傾向は続き、個人消費の回復は遅れそうです。また、レイオフからの職場復帰を除外すると5月も雇用の削減が続いており、実態的には雇用の回復は鈍いようです。総じてみれば、米国の景気回復ペースは緩やかなものに留まると見られます。

循環的に景気が回復に向かうことで株式などのリスク資産の価格は引き続き上昇すると予想されますが、個々人の景況感には歯えない状況が続くそうです。

図1：米国の失業率と非農業部門就業者数

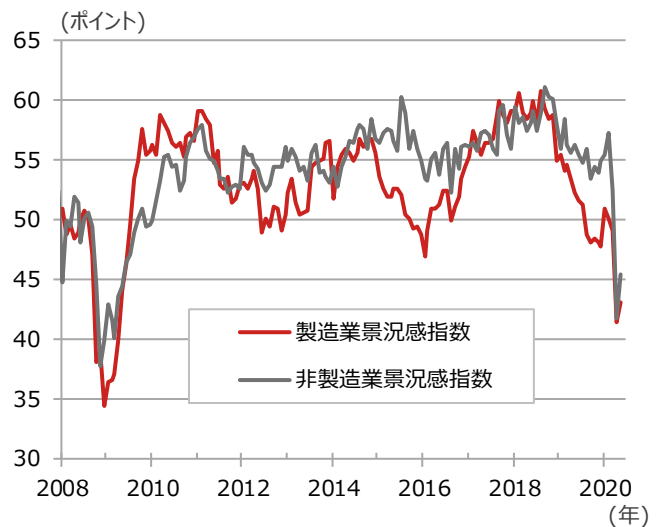
期間：2020年1月～2020年5月、月次

	失業率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
		総数	前月比 増減
2020年			
1月	3.6	15,221	21.4
2月	3.5	15,246	25.1
3月	4.4	15,109	-137.3
4月	14.7	13,040	-2,068.7
5月	13.3	13,291	250.9

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米ISM景況感指数

期間：2008年1月～2020年5月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

6月10日
6月16日

米金融政策発表
米鉱工業生産指数、米小売
売上高（5月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。